

薄磯防災緑地ワークショップ

かわらばん 第1号



平成 25 年5月 26 日(日)に、いわき市平薄磯の修徳院にて「第1回薄磯地区防災緑地ワークショップ」が開催され、住民の方など 30 名が参加されました。

今回は、海沿いに整備される防災緑地ワークショップの第1回目で「防災緑地を知ろう」と題し、防災緑地の計画の概要や講話、参考事例（和歌山県水軒堤防）の紹介が行われました。その後、5つのテーブルに分かれ、「防災緑地のありかた」や「防災緑地に望む機能」などについて話し合わせ、防災緑地が有する課題や整備に対する要望などがまとめられました。このかわらばんでは、ワークショップの様子や結果をお伝えするとともに、ワークショップの目的や今後の予定などを紹介していますので、是非、ご覧ください。

当日の流れ

①防災緑地の説明



ワークショップでの話し合いを進める前に、参加者の皆さんに正確に防災緑地のことを知っていただくため、県より防災緑地の役割や計画の概要などについて説明がありました。

防災緑地は津波の減衰や漂流物の捕捉を目的としたものですが、地域活動の場や景観・環境再生としての意味も併せ持っており、本ワークショップの成果が設計に反映されます。H27 年度に防災緑地が完成予定ということで、皆さん真剣にお話を聞かれていました。

②先生の講話



東北芸術工科大学の廣瀬先生より、「風土から防災緑地を考える」についての講話がありました。磐城七浜の塩除松や能代海岸の砂防林「風の松原」では松林の役割、広村堤防の事例紹介では地域の暮らしの中に馴染んだ防災緑地についてのお話を聞くことが出来ました。薄磯地区の防災緑地を考える上で、とても参考になる講和でした。



青森県おいらせ町の防潮林

③参考事例紹介（和歌山県水軒堤防）



講和に続いて、いわき建設事務所より「住民による堤防の松原の再生事例」を紹介していただきました。

小中学生やボランティアが協力して、植樹・清掃活動・親しみやすい環境づくりなどの様々な活動を進めている事例であり、薄磯地区に整備する防災緑地を維持管理・保全していくためのヒントとなる内容でした。



和歌山県の水軒堤防

④意見交換・発表



グループに分かれての意見交換では、防災緑地に対する思い、欲しい施設、留意したいこと等について、一つのシートに意見をまとめていきました。どのグループも、参加された皆さんから活発な意見や要望をいただくことが出来ました。最後に、各グループの代表者に話し合った内容について発表していただき、全員で意見の共有を図りました。



発表の様子

各グループの防災緑地に対する主な意見・全体発表の様子

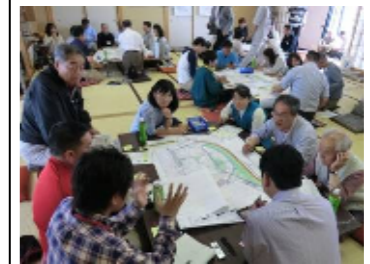
Aグループ

【整備の方向性】津波からの安全性の確保だけでなく、地域振興、景観、レクリエーション等の機能を併せ持つ公園的な防災緑地整備
 【課題】宅地側緑地斜面の緩傾斜化（緑地と背後地の高低差解消）、隣接する公園との一体的な整備、景観を生かした植栽方法、植栽の維持管理の仕方
 【要望】地域風土と調和する緑化（ハマナ・シソ等）、四季が感じられる緑化、お年寄りも利用し易く歩きやすい園路整備、地域住民のレクリエーション広場の整備、浜と宅地を結ぶ避難動線の確保、休憩施設の整備
 【その他】低い宅地エリアの円滑な排水処理、周辺からの道路整備、海側のどこからでも登りやすい階段状の堤防整備、災害モニュメントとして中学校を残す、観光者用の駐車場の確保、慰霊碑や献花施設の整備



Bグループ

【整備の方向性】日常生活でも利用しやすい施設整備と明確な避難ルートの確保、及び観光客の利用に必要な施設を設けた防災緑地整備
 【課題】防災緑地の早期整備、観光客に配慮した施設整備、海側へのアクセス
 【要望】足に負担がかからない遊歩道整備、ランニング、ジョギング、クロスカントリーの出来るコースとしての整備、案内サイン等の設置、トイレ（井戸水利用）・東屋・駐車場・ベンチ・階段式ベンチの整備、県立自然公園や高台に避難できるルートの整備、バックシン等の緑化
 【その他】道路の海岸側に駐車場の整備



Cグループ

【整備の方向性】安全な避難体系をベースにしなが、良い景色と遊びや集いの空間を確保した「町と海」「観光客と住民」の関係を妨げない防災緑地整備
 【課題】避難方法などソフト面と合わせた総合的な検討、防災緑地の生活空間の融合、海と観光による薄磯地区の復興、堤防の圧迫感をいかに無くすか
 【要望】四季折々の草花や木々を交えた堤防植栽、ジョギング・散歩ができる遊歩道整備、子供たちが遊べる空間（サッカなど）、人工磯遊び場や水場、誰もが使いやすい施設整備、避難を考えた螺旋状階段やスロープの配置
 【その他】ビーチバレーや初日の出などの観光資源の活用、通学路やバス路線の検討、昨年ワークショップ意見の反映や具体案を早期に提示して欲しい



Dグループ

【整備の方向性】海からの避難路の充実と、3箇所のビューポイントや休憩・便益施設を設け、住民が関わりを持って管理していく魅力ある防災緑地整備
 【課題】植栽したときの防災緑地の圧迫感、堤防による宅地周辺の風などの自然条件の変化、緑地を超えて海へのアクセスが大変である
 【要望】膝にやさしく歩きやすい舗装（ウッドチップ）、キロポストの設置、海を眺めるビュースポットの整備と日除けや雨除けの東屋設置、海からの避難路を数多く設置、四季折々の花（ツツミハマナなど）を植栽、震災説明板等の設置
 【その他】豊間中学校の保存、地域住民がかかわれるイベントの開催、慰霊碑の整備、地元植栽管理費の県補助、整備地区の他所にも模型設置して欲しい



Eグループ

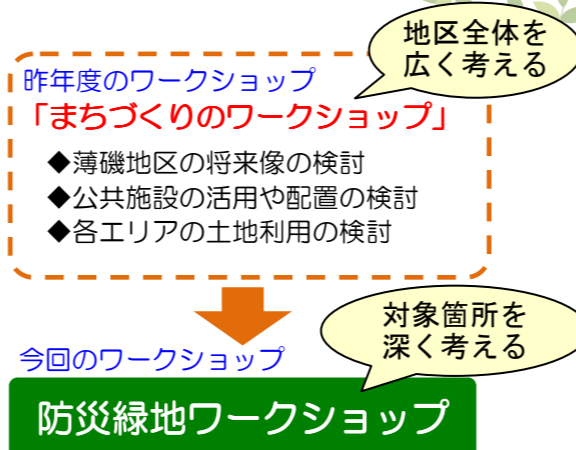
【整備の方向性】軽スポーツや憩いの場など色々な利用が出来、多くの人が訪れる美しい景観を活かした、他地区の見本となる防災緑地整備
 【課題】海岸から防災緑地へのスムーズに避難できる階段などの施設整備、工事騒音や岸利用者のための駐車場整備、県道沿いの景色鑑賞用駐車スペースの整備、車両の集中などからの子供たちへの影響軽減
 【要望】色々な利用ができる足腰にやさしい散策路整備（ジョギング・サイクリング・カート・車いす）、ドッグランの整備、トイレ・ベンチ・東屋・水飲みの設置、避難標識の設置、花や実のなる堤防陸地側の緑化（桜・芝桜・柚子など）
 【その他】海岸利用者のための駐車場整備、県道沿いの景色鑑賞用駐車スペースの整備



■ 防災緑地ワークショップについて

今回のワークショップは、平成 24 年度に行なわれた「まちづくりワークショップ」に引き続き、海沿いに整備される防災緑地のワークショップです。これまでは、“薄磯地区の将来像”や“公共施設の活用や配置”、“エリア毎の土地利用”、“避難場所や避難路”等について話し合ってきました。

防災緑地のワークショップでは、昨年度に話し合った内容をふまえて、薄磯地区における「防災緑地」の整備について、考えていくものです。地域の皆さんと一緒にアイデアを練りながら、防災緑地の「かたち」を決めていきます。



《昨年度のワークショップにおける防災緑地及び周辺に関する主な意見》

- 【防災緑地】 散策路やジョギングコースの整備／日陰に配慮した樹種の選定や配置／風力発電設置
- 【県道（豊間四倉線）】 太陽光発電やLEDを活用した街路灯の整備
- 【海岸緑地/海岸堤防】 海水浴場の駐車場／バーベキュー施設等／防潮堤・スロープの整備／避難しやすい構造／人工磯の検討
- 【その他公園との関連】 居住・生活サービスエリアは谷地にせず、高台と差がでないように盛土／豊間中学校の活用は津波被害の伝承／学生や教員の防災教育／防災リーダーの育成を目的とした防災教育施設の整備 など

これまでの意見も踏まえながら進めていきます

🌿 ワークショップの目的は？

本ワークショップは、以下のようなテーマと目的（狙い）にて進めています。

◆ワークショップのテーマ

『薄磯地区防災緑地ワークショップ』
 ～地域を守り、地域に愛される防災緑地を考えよう！～

◆ワークショップの目的

- ・地域が必要とする緑地、地域に大切にされる緑地、地域の特色を生かした緑地となるよう、地域の課題、関心、ニーズを掘り起こし、防災緑地づくりに反映する。
- ・地域住民と行政が防災緑地の必要性、意義、役割を共有する。
- ・地域住民が防災緑地づくりに参画することにより、地域と行政が協働・協力して、防災緑地を守り育てる関係を構築する。

🌿 ワークショップって何？

地域の方々の思いを共有し、皆さんと合意を図りながら整備を進めていくための手法です。

「ワークショップ」とは
 もともとの意味は「作業場」「工房」などですが、たくさんの方がものづくりを行う場、というイメージです。ここから「主体的に参加したメンバーが協働体験を通じて何かを創り出したり学んだりする場」を意味するようになってきました。
 ワークショップでは、参加者がグループ別や全体で共通のテーマについて対話をし、お互いを理解し合い、新たなアイデアや解決策などを導き出していきます。

🌿 どうやって進んでいくの？

以下の運営計画を進めています。この内容は話し合いの状況で必要な見直しをしながら柔軟に進めていきます。
 ※今回の表面の「かわらばん」は、第1回の開催結果の内容です。

回	場所・時間帯	テーマ	内容	成果
1	【場所】 修徳院 【日時】 5/26（日） 9時～11時半	「防災緑地を知ろう」 ・「防災緑地」の役割・機能は？ ・どんな場所につくるの？ ・防災緑地を通して地域の課題を考える（防災、風、飛砂、飛塩、風習、生活、海との関係等） 【勉強会①】 ★東北芸術工科大学 廣瀬先生講話「風土から防災緑地を考える」 【現地確認】 ・スライド等による現地状況確認	・WS運営計画説明 ・津波防災緑地機能説明 ・計画地の説明 ・勉強会 ・グループ意見交換（気づいたこと、感じたこと、地域への思い等） ・発表とまとめ	・現地や防災緑地への理解 ・地域住民の防災緑地への思い、関心の掘り起し ・地域住民間の相互理解、視野の広がり
2	【場所】 いわきニュータウンセンタービル 【日時】 6/15（土） 18時～20時半	「防災緑地のイメージを考えよう」 ・前回のイメージ、方向性の振り返り ・意見を反映させた平面比較案（事務局作成）にもとづく意見交換 【勉強会②】 ★樹木医 木田さん講話「薄磯地区の身近な樹木について」	・前回のおさらい ・勉強会 ・グループ意見交換（各案の長所と短所について意見交換） ・発表とまとめ	・比較案を用いて防災緑地の役割、機能を考察 ・施設や園路の配置等を検討
3	【場所】 いわきニュータウンセンタービル 【日時】 7/6（土） 18時～20時半（予定）	「防災緑地のイメージを固めよう」 ・前回の方向性を踏まえた平面図の確認および要望 ・施設や植栽の検討 ・整備後の利活用の意見交換	・前回のおさらい ・グループ意見交換（平面図の案に対する意見） ・発表とまとめ	・比較案に対する意見、要望 ・植栽の選定方針
4	【場所】 いわきニュータウンセンタービル 【日時】 7/27（土） 18時～20時半（予定）	「防災緑地の最終案を確認しよう」 ・最終案の確認（計画案・イメージスケッチ提示） ・整備後の利活用と管理の年間計画案についての意見交換	・前回のおさらい ・現地確認 ・グループ意見交換（最終案、今後の利活用や管理方法） ・発表とまとめ	・最終案決定 ・最終案への理解 ・利活用管理年間計画案

★毎回、ワークショップの終了後に「薄磯防災緑地かわらばん」を発行し、各回の開催結果概要を、地域の皆さんへもご報告していきます！！